

貝殻で砂浜の環境を比べてみよう！

水産土木工学部

研究の背景・目的

砂浜にどのような貝類が生息するかは、海底の環境条件に強く影響されます。海水温の地域差や砂浜の連続性などの地形的特徴が貝類漁場に与える影響を把握するには、都道府県を越えた広域的な調査が必要です。しかし、国による資源量調査の対象となる浮魚・底魚類とは異なり、二枚貝のように地域性の強い資源の分布パターンについては、断片的な情報しか得られていません。また、海底の二枚貝の採集には船が必要であるため、広域的な調査には大きな費用が掛かります。このため、砂浜の貝殻を手がかりにして、漁場環境の広域調査を低コストで行う方法を考えています（水産庁委託「沿岸域環境診断手法開発事業」）。

研究の成果

1. 砂浜に貝殻が集積する特徴についての予備調査を行い、異なる砂浜のあいだで各種の貝殻の多寡を比較するための共通の調査方法について検討しました（平成 21 年度）。
2. 春季に福島県北端から茨城県・千葉県を経て神奈川県西端までの 44 箇所の砂浜で貝殻の採集調査を行いました（平成 22 年度）。今後、貝殻の種組成と分布パターンを明らかにし、環境条件との関係について解析していきます。

波及効果

1. 船や漁具を必要とせず、素手による採集で多数のデータを集めることができるので、全国調査や定期調査を低コストで行えるようになると期待されます。
2. 市民参加による調査活動などを通して、情報共有を進められることが期待されます。



「鹿島灘はまぐり」の幼貝の貝殻



方形枠を用いた貝殻の採集

(生物環境グループ: 齊藤 肇)